

氏名	山本 恵美子		
授与した学位	博士		
専攻分野の名称	文化科学		
学位授与番号	博甲第5848号		
学位授与の日付	平成30年 9月27日		
学位授与の要件	社会文化科学研究科 社会文化学専攻 (学位規則4条第1項該当)		
学位論文題目	看護師の正確な情報伝達に関する医療安全教育の検討		
学位論文審査委員	教授 田中 共子	教授 東條 光彦	
	教授 塚本 千秋	教授 兵藤 好美	

学位論文内容の要旨

現代の複雑化する医療現場において、医療安全の必要性はこれまでになく高まっている。小さなエラーが次々と見逃されていけば、やがて大きな事故に至るといわれる「スイスチーズモデル」に基づく流れを認識し、対策を講じていく必要がある。ヒューマンエラーやコミュニケーションエラーによって引き起こされる事故は多いが、それを防ぐためにはチーム医療における正確な情報伝達が鍵となる。その正確な情報伝達のための技法が、心理教育でいうところのソーシャルスキルとして教育可能であるなら、看護師や看護学生への医療安全教育に使う事ができると考えた。そのため、臨床現場で看護師が実際に行っているスキルを明らかにする調査を行ったうえで、それを学習する教育的介入の実践研究を試みた。

序章では、本研究の目的および意義、および本論文の枠組みを示した。第一章では、看護教育制度の動向を整理し、看護教育制度における医療安全対策の現状について述べ、看護基礎教育における医療安全に関わるコミュニケーション教育の現状と課題を論じた。

続いて新人看護師の情報伝達を探るための新しい心理教育として、独創的なゲーミングシミュレーションを考案した。第二章はその予備的試行であり、より拡大した実践が第三章である。予備的試行では、現場で求められる状況への対応を課した仮想場面が使われた。例えば急変した患者人形の処置を求めるなどした。処置は急を要するが複雑なもので、エラーが起きやすい。その経験から、エラーが身近であることを実感し、どうしたらエラーが防げるかを振り返ってもらった。職位が上位の者への確認行動が滞りやすいことが分かったため、それを促すことに焦点化して後続試行を構成した。権威勾配のある仮想場面を設定し、確認行動への迷いがエラーに繋がる体験を、ゲーム中にしてもらう。続いて対策編としてどのように確認をとるのか、具体的な認知と行動を示してス

スキル学習を行った。反応の測定には質的、量的な手法を併用し、学習者への教育的効果を探った。

その後のフォローアップでは、病棟で習ったスキルを実際に使った者がいたことが確認された。

第四章は、現役看護師を対象に、情報伝達のソーシャルスキルを抽出するための量的調査から成る。学習湯課題を精緻化するために、「指示の出し受けスキル」を詳述してターゲット行動を包括的に抽出する目的で質問紙調査が行われた。第五章ではその結果に基づき、看護学生に特にニーズの高い指示受けスキルの学習プログラムを構成し、試行した。学習により安全への意識が高まり、必要とする行動が理解できたとの認識が高まっていた。なお看護学生に必要とされる確認行動を詳細に見ると、現職看護師に質問するためにはまず自らの考えを整理し、適切な言語に変換する力が必要になること、基礎看護教育ではそこから育成する必要があることが分かった。臨地実習において学習したスキルの行動化の度合いを調べると、自分の学習レベルを説明するなど能動的な働きかけについては実践が難しいことがわかり、より長期の学習が課題と考えられた。

最終章では総括が行われ、本研究の意義と限界、展開可能性が述べられた。指示の出し受けスキルの抽出は、看護基礎教育段階から、現場で求められる必須のスキルの育成を行うのに役立つ。また教育的介入の実践からは、看護師間の正確な情報伝達においては、段階的な教育による向上が可能であることが示唆された。看護学生、新人看護師、先輩看護師へと成長する際に必要となる、情報伝達のスキルが教育できる端緒を開いたことは、今後の医療安全への意義ある提言といえる。

学位論文審査結果の要旨

本研究は、医療安全教育の新たな方法の開発を目指して、心理学と看護学の学際領域で、量的・質的手法を組み合わせて調査研究と介入実践研究を展開したものである。医療安全のためのソーシャルスキルのリスト化や独創的な教育セッションなど、興味深い結果が得られており、現場で常に課題となっている看護教育における卒前・卒後の連結に注目した発想も、意義あるものといえる。従来は心得の説明や注意に留まる医療安全教育に、模擬体験型のシミュレーションゲームを取り入れて、エラーから事故に至る流れを理解させながら、実感を伴った現象理解と試行錯誤からの学びを可能にする心理教育を提案している。教育方法として、多様な手法を取り入れたアイディアは面白いものと評価できる。

審査委員からの主な質問として、ソーシャルスキルの調査結果と学習ターゲットの選択の関係、今回のターゲット以外の医療事故関連要因の教育への組み込みの可能性、対象者が少ない試みでの代表性や妥当性の確保、対照群設定における工夫などが尋ねられた。求められた議論としては、認知の起点性や正確な情報伝達という表現の意味、適度な確認行動の在り方、情報処理の負荷の抑制、準拠したスイスチーズモデルの特徴や限界、他モデルとの比較などが問われた。一方で課題としては、個の変化過程やゲームへの反応に対する過程と質の吟味がさらに求められること、ハード面とソフト面での問題を再考すること、教育で成長が望める面と難しい面の弁別と対応を考える必要があること、心理学分野と看護分野における倫理規程への配慮が今後はさらに必要になることなどが

指摘された。そして修正やさらなる努力を要する点として、誤字脱字の修正、文章の洗練、論旨構成の整合と総括の充実が指摘された。

これらのコメントや問いに対して提出者からは、学習者のニーズを優先した課題設定にしていること、フィールド環境の中で研究計画を調整したこと、セッションの構成や評価に現職の安全教育の責任者に加わってもらっていること、実例をもとにして一層多様な学習課題を設定できること、安全面を含めた個人の適性による職務配置や組織構成が現場の課題となることなどが述べられ、いくつかの表現については説明が補足された。今後はさらに精緻な過程の分析や、新たな学習課題の作成を考えていきたいという抱負が語られた。表現の不十分な部分を残している点は難点といえるが、現場の問題解決をはかろうとする意欲的で独創的な研究となっている。質疑における応答は深慮されており、課題認識も的確で、本主題を巡る職業人としての提出者の深い思索が窺えた。

本論文の提出から審査に至るまでに、さらに一本の投稿が掲載決定されたことが報告された。その結果、刊行済みの査読付き英語論文3本と査読なし日本語論文2本、印刷中の査読付き日本語論文2本、投稿中の日本語論文1本で扱った内容を、まとめたものとなっていることが確認された。

質量ともに学位論文に相応しい成果を挙げていることから、全員一致で本論文を博士の学位に値するものと判断した。